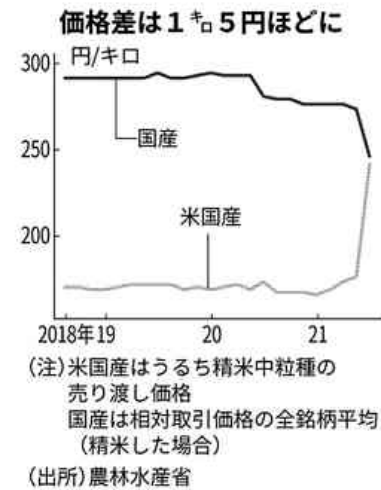


米国産米と国産米の価格差が縮んでいる。農林水産省が9月下旬に実施した入札では、米国産のうるち精米中粒種の売り渡し価格は前年同月比4割高かった。一方、国産の2021年産米の卸値は下落基調にある。小麦や油などが高騰する中、米国産を使ってきた日本の外食業者などは材料費を抑えるため国産への切り替えを視野に入れる。

コメ、内外価格差が縮小



米国産のうるち精米中粒種の需要家への売り渡し価格は前年同月比約24.5%と約240円、約4年ぶりの高水準だ。主産地の米カリフォルニア州の干ばつで生産量が2割減少したうえ、海上運賃の高騰や円安・ドル高が重なった。JAグループなどが卸に販売する21年産米の相対取引価格は「カルローズ」と

米国産4割高、国産は下落基調

米国産のうるち精米中粒種の需要家への売り渡し価格は前年同月比約24.5%と約240円、約4年ぶりの高水準だ。主産地の米カリフォルニア州の干ばつで生産量が2割減少したうえ、海上運賃の高騰や円安・ドル高が重なった。JAグループなどが卸に販売する21年産米の相対取引価格は「カルローズ」と

外食業者、切り替えも視野

足元ではカルローズが0.1%のカルローズを使用。米国産の価格上昇をうけて、平井浩一郎社長は「米国産が国産の価格を上回り続けるなら、国産への切り替えも考えた」と語る。

需要家は仕入れの様子を見始めた。10月下旬のSBSではカルローズの落札はなかった。入札は年に複数回実施される。「国産在庫が十分にあり輸入米の購入は慎重に判断する」(大手コメ卸の役員)

米国産の高値は続く見通しで、現在は一部の業者間取引にとどまる「米国産高・国産安」の現象が広がる可能性がある。コロナ禍から回復途上にある外食産業はコスト削減のため、米国産を買い控える動きが広がりそう

米国産のうるち精米中粒種の需要家への売り渡し価格は前年同月比約24.5%と約240円、約4年ぶりの高水準だ。主産地の米カリフォルニア州の干ばつで生産量が2割減少したうえ、海上運賃の高騰や円安・ドル高が重なった。JAグループなどが卸に販売する21年産米の相対取引価格は「カルローズ」と

(小川望)